

<今回>3462回目 2024年42月85日(月)14時~17時 6014会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p529510、無称号の理由両者は対等位置 より

<前回>345回14目(24-31-2529)出席者99名

資料1) (2-3-1)第3450回(24-31-2529)のまとめ(清水)

資料2)「三角縁神獸鏡は卑弥呼のもらった鏡でない」の発表資料一部(服部)百濟人祢氏の墓碑銘(気賀沢、岩田、清水)

資料3)隅田八幡神社鏡銘(古田、榛葉)

資料4)朝日新聞1月24日れきし歩き岩戸山古墳(高木)

A 報告 数日菜種梅雨がつついている。今日は都合のつかない人から数名連絡あり。金曜webで服部氏が藤原不比等の過大評価説に疑問を呈する発表があった。各種資料を用いて、説得性が高い発表であった。私は「多胡碑」に不比等の名前が出ていと質問した。いろんな資料から関西の服部氏が不比等の権力基盤についての考察が論理的だったのを受けて質問した。多胡碑については後日丁寧な紹介を受けた。「羊」は周圀が郡司に任命されたのを疑問視しているのを、打ち消すために、上位3名の最下位(第3位)の不比等の名を出したのは、中央政界で最大の実力者と評価されていたのではないかと意味で質問した。回覧資料は申し出があれば、複製します。申し出てください。

書式変更: インデント: 最初の行: 4 字

B資料 料 2)金曜 web は服部静尚氏の「卑弥呼のもらった鏡は三角縁神獸鏡か」と題して32頁の論文を発表していた。もちろん三角縁神獸鏡ではない。平原古墳の32面の破壊された鏡の中に尚方作と鑄出された鏡は宮廷の工房で作られたことを示している。割れたのは微量の水素元素の抜けることに依る、自然破壊が妥当である。その席上、配布を受けた、「百濟祢軍墓碑銘」の解説状況が解説されていたので紹介した。発見当

時、古代「日本」の呼称の最古の金石文と云う報道があった。が祢軍は白村江の占領軍の一員として日本書紀に

も名前が出ている。弟の墓碑は西安から出ていて北京博物館に現在保管されているという。扶桑の文字もある。660年百濟が滅亡した時に唐に降伏して、唐の下級將軍として、活躍した。出所は北京の古物商から、拓本として出てきたもの、解説の様子が書いてある。最初の公表は2012年3月である。明治大学の気賀澤氏が発表した。朝鮮の軍將が一族、内陸の西安に墓標があると言うのは、朝鮮問題が片付いて、内陸地の兵隊の長に任命されていたのではないと推定される。封禪の儀の倭国曾長は誰であったか、サチヤマか。

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 字

3) 榛葉氏より、隅田八幡神社の順佛画像鏡の解説の原史量として配布された。左文、読み方などの参考になる。皆で画像を透かして見て、左文の意味を味わった。丁度今、読書している最中である。

4) 高木氏が朝日新聞24日の記事を紹介してくれた。新聞記者の文章は巧く現状をまとめている。磐井について岩戸山古墳が彼の墳墓と確定された経緯や、別区の裁判制度の評価など、話題になった。更に古田先生は何故「磐井継体戦争はなかった」論に変更されたか、調べることになった。

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 字

C

読書 朝日文庫版:p52906、無称号問題9行目、なお井上光貞は から

- (1)——1)「斯麻」無称号問題。癸未年(503年)は武寧王3年にあたる。日本書紀武烈紀では4年(502年)是年百済の末多王無道にして百姓に暴虐する。国人遂に除き、島王を立て、武寧王とする。百済新撰に曰く隅田八幡神社の人物画像鏡の読み方について、水野裕の説に賛同したが、日十を八月十日の意味に採った。理由は「倭の五王」を日本書紀の允恭にして、癸未年は443年とした。忍坂之夫中津比売を意柴沙加宮とした。「寿」は「泰」である。①字形判定—左右対称に近い。奉か泰の左文か、直後の「遣」は左文である。(左文とは裏返しにした文字の用法、刻むのは困難、左右逆になる。)②対等の論理、従来説は大王・男弟王=天皇、斯麻を配下の人物に当てていた。③「遣」の用例を多数出している。遣(使者)+敬語(奉、朝、献)の動詞。この鏡の場合は取、作の動詞で敬語表現がない。高橋健自氏は念長寿を年長奉と判読して—を奉ると読解した。(在銘最古日本鏡大正3年)がこのような文型は存在しない。敬語は遣の下に来る文例を上げた。として同様の文章が引用されている。ただ引用文の島王は斯麻となっている。即位日が限定できない。
- 2)倭の5王に相当する宋書の元嘉中(424~53)百済の王、余毗生口を献ず、余毗の子慶立つ、慶死して子の牟都立つ、都死して牟太立つ、斉の永明中(483~93)太を都督百済諸軍事鎮東大將軍百済王に除す。
- 3)天藍元年(502年)太を征東將軍に進む。高句麗に破られ、衰弱し、居を南韓の地に移す。(梁書)(東城王)
- 4)普通2年(521年)王余隆(武寧王)高句麗を破り、行都督百済諸軍事鎮東大將軍百済王、使持節都督百済諸軍事寧東大將軍百済王に除す。
- 5)普通5年(524年)隆死、詔してその子明に持節都督百済諸軍事綏東將軍を授与している。以上から癸未年は苦戦の最中だから百済王と名乗っていない。
- 6)天智称制の場合 齊明天皇は九州朝倉宮で(661・7)崩、新羅唐の連合軍と決戦のさなかであり中大兄皇子は皇太子のまま即位していない。事実上代行して天智7年(668年)に初めて正式に即位した。同様に百済王斯麻は称号を使わず対等の立場で鏡を贈与した。
- 7)男弟王の特定力 固有名詞がないが、斯麻の武寧王の墓誌銘に妻女が4年後無くなった時の墓誌名がある。これを見れば固有名詞はないが特定力は同じである。
- 8)どのように伝来したか。社伝に神功皇后の将来であると言う。(紀伊統風土記天保10年高橋健自、在銘最古の日本鏡)。記紀には記載がない。隅田八幡神社へは何時渡ったか不明である。一応の読みは 癸未年八月日十大王年男弟王、在意紫沙加宮時、斯麻念奉、遣開中費直穢人今州利二人等、取同上同二百早、作是竟
- 9)船山古墳の大刀 これについても不読文字を無理に天皇名に当てはめて、稲荷山鉄剣の文字が赤外線判読可能になれば、それにあわせて読むことに学会全員が膨大な熱意を注ぎ込んだ。

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 mm

2024-2-5(月) 14時から17時 601会議室

2-19(月) 14時から17時 602会議室 4-22(月) 14時から17時 602会議室

5-6(月) 14時から17時 601会議室

書式変更: インデント: 左: 6.3 mm